

球 場 紹 介

市川市少年野球連盟設立以前、市川市の少年野球は学校や地域子供会が中心となって活動していましたが、市内各地区の交流や相互の活性化や指導者の研修を推進して正しい安全な野球を普及すること、大会運営の責任体制確立を望む声が高まって来ました。

昭和 55 年、市川市少年野球連盟が設立されて、青少年健全育成のため組織的な少年野球の考えと体制がスタートしました。しかし、当時は子供たちが専用できる野球場が少なく、連盟大会を運営する少年野球場の確保が大きな問題となりました。当時、青少年課に勤められた露崎功氏は 10 周年記念誌で、「子供たちが安心して使用できる専用球場を確保しようと休耕地を探してその借用に奔走したものです」と語っておられます。妙典土地管理組合理事長の藤原さんを訪ねて、子供たちの野球場確保に苦慮している実情を説明し協力依頼をしたところ、「うちにも孫がいることだし、みなさんのためなら、できる限り応援します」と約束を得たそうです。「藤原さんの言葉は私たちの気持ちを奮い立たせてくれる激励の言葉となりました」と記述されています。また、柏井少年広場は現在大小 4 つのグラウンドがあります。低学年の試合には最良の大きさです。その 3, 4 号グラウンドは元々栗林でした。その栗林を少年野球場にしたいと情熱を燃やしたのは篠崎義治氏でした。地主の川野辺さんに栗林を子供たちの野球場として使いたいと懇願し川野辺宅に通うこと一年、やっと承認をもらい栗林の開墾・整地そして防球ネットの設置を 100 余名のボランティアを組織して実施しました。そして市川市に借用契約を結んでいただき、それは見事な森に囲まれた素晴らしい野球場が出来上がりました。このように多くの先輩方が子供たちが安心して使用できる野球場のため情熱を傾けられました。

10 周年記念誌で紹介されている野球場は「柏井少年広場、大野少年広場、北方少年広場、宮久保少年広場、東国分少年野球場、東国分少年広場、田尻少年広場、妙典少年広場、南行徳公園グラウンド、行徳橋下河川敷グラウンド、河川敷 11 号グラウンド」と記述されています。しかしながら、「大野少年広場、宮久保少年広場、東国分少年野球場、田尻少年広場」はなくなり、10 周年記念誌に記述はありませんが、菅野 5 丁目少年広場も住宅に変わっています。10 周年記念誌で紹介されている野球場の中で現存する少年広場、そして原木少年広場、大野 4 丁目少年広場、塩焼中央公園少年野球場、そして近年使用するようになった福栄スポーツ広場、青葉少年スポーツ広場を加えて本誌で紹介したいと思います。市川市の野球少年たちにとって大切であり、かけがえのない「子供たちが安心して野球ができるグラウンド」です。

これらの少年野球場は先輩たちが不屈の情熱と努力で今の私たちに残してくれた宝物です。無心に白球を追う子供たちのプレーには人の心を感動させる力があります。しかし、子供たちには野球場を確保する力はありません。この子供たちのため、今大人である私たちが素晴らしい少年野球場を残したいと思います。連盟設立時、先輩方が私たちにしてくれたように。

国府台球場

春季大会、夏季大会の開会式及び決勝に使われる市川市随一の本格的野球場である。

学童野球から大学野球、早朝野球やナイターなど、市川市民に最も親しまれるところである。平成 16 年 10 月、市制 70 周年を記念し、名球会が市川選抜チームとの交流試合を行い、多くの観客が集まったことも記憶に新しい。



国府台の桜の下で球春開幕



初公開？スコアボード裏の様子



市川市の野球少年の憧れの国府台球場。この市川市の甲子園は中学野球、高校野球では公式戦のグラウンドとなります。先輩たちも汗と涙と友情が沁み込んだ国府台球場を経験します。

平成 21 年夏・炎天下の国府台球場は高校野球千葉県大会の 1 回戦が行われていました。青い空・緑の芝・茶色のグラウンド。この美しいグラウンドは市川市の自慢です。

平成 18 年 8 月、第 1 回日韓交流戦は国府台球場で対戦しました。緑の芝と真っ直ぐなライン。少年野球サイズにするため外野にはネットを張りました。準備万端で今や遅しと試合を待つ国府台球場です。



東国分少年広場

市川市北西部に位置、少年野球連盟が設立される以前の昭和 53 年頃（正確な記録無し）に開設されたと記憶する。当時は市川市第四地区子供会育成会連絡協議会に所属する 16 団体 23 チーム（昭和 52 年市川市第四地区子供会少年野球大会運営委員会設立第一回大会開会）が大会や練習に利用することとなる。この時期には既に宮久保少年広場（現在は廃止）が存在し、後に新設される東国分少年野球場（現三愛幼稚園）と併せて昭和 55 年に設立された市川市少年野球の第四地区として春夏の大会の大半を第四地区で消化し、その運営に寄与した歴史を持っている。このことで連盟 30 周年を迎えるにあたり、記念誌に球場紹介をするとのこと、当該広場に遇っては 32 年を超えて維持管理を行った大勢の方々がある他に、市川在住の地権者の方がお三方いらっしゃいます、特に、その中でも国分在住の山崎様におかれましては、子供達の為にとご尽力を戴きました、又、初代の連盟会長故浮谷貞雄氏とは昵懇の間柄で在り、市川市 ガーデナ市姉妹都市提携 20 周年記念 市川市少年野球連盟親善訪米研修団顧問して活躍、連盟の設立運営にも多大なご貢献を戴きましたこと、本誌を刊行するに当たり、感謝を申し上げると共に、忘却してはならない歴史としての一ページを記すものです。



平成 21 年 6 月 28 日 第 12 回低学年試合風景



昭和 57 年 7 月親善研修訪米選手団 周囲は水田と空き地で何も無いのが窺える

柏井少年広場

市営キャンプ場の隣に位置する「柏井少年広場」は市川市でも有数の自然豊かな場所です。四季折々の姿を見せてくれる緑の森に囲まれたグラウンドです。季節感があり整備が行き届いたグラウンドには柏井球場ファンがたくさんいます。1%支援制度により設備が整い、ボランティアの力により維持されています。球場管理は地区リーグ事業部により徹底しています。市川市で自慢の美しいグラウンドです。なお、球場の地権者の皆様には、子供たちが元気に野球ができる基盤をご提供いただき、少年野球連盟30周年記念にあたり、改めて感謝を申し上げます。



天然芝を張った3号グラウンドは美しい



柏井少年広場には4つのグラウンドがある

1%支援制度でグラウンドに井戸と散水設備を設置



青い空、緑の森、土の香り



2006年は芝張り工事



多くの市民が少年野球に集う



北方少年広場

市川東高校の隣に調整池があります。その隣に位置する小さなグラウンドが北方少年広場です。レフト側は 50 m に満たないが、10 m のグリーンモンスターが立っています。北側にある県有地はサブグラウンドとして整備されています。また、法典の湯近くに駐車場がある。サブグラウンド、駐車場の借用に関しては、市川市青少年課と球場関係者の努力で実を結びました。地域にとって大変貴重なグラウンドです。球場の地権者の皆様には、子供たちが元気に野球が出来る基盤をご提供頂いており、少年野球連盟 30 周年記念にあたり、改めて感謝を申し上げます。



毎年春・地域の大会の開会式が行われる



小さいながらも、地域の少年野球にとって貴重なグラウンドです。柏井少年広場と同じく球場長を中心にグラウンド整備は徹底している。隣の家庭農園や桜花、菜の花咲く田園風景の中にある北方少年広場です。



2004 年春グラウンド再整備に伴い安全祈願祭



満開の桜に囲まれて試合が行われる



地域の親睦の場でもある



2006 年春・県有地の整備



2005 年春・駐車場整備

大野4丁目少年広場

市川市の東北部、大野4丁目少年広場は緑多い長閑な少年広場です。市川市動植物園に近い所にあります。その昔は殿台サミットが使用年広場を管理していましたが、今は「みかどファイターズ」が草刈りや防球ネットの補修からグラウンド整備を一手に引き受けています。



平日の午前中、ゆったりとボール遊び



グラウンドを清める心が感謝の心

この少年広場で練習したチームが「ろうきん杯」準優勝に輝いたり、そして甲子園球児も生まれています。地域にとって本当に大切で尊い場所になっています。地域のお年寄りから幼い子を連れたママたちも長閑な少年野球の観戦者であり、地域交流の場所となっています。



地域の方々と子供たちが少年広場で交流



小さい子も一生懸命に野球が出来る



市川市動植物園に近い大野4丁目少年広場



夏祭り 野球少年たちが活躍

河川敷グランド（6号、7号、10号、11号）



行徳橋の上から見る11号グランド（通称Aグランド）

江戸川河川敷に、京葉道路の上流側と旧行徳端を挟む形で、少年野球場が4つあります。

これらの球場の特徴はなんといっても、視界を遮るものがない広々とした開放感です。

地域リーグなども活発に行われ、週末には十数チームがここを訪れます。

広いがゆえに維持も大変ですが、熱心な多くのボランティアによって日々整備されています。

土手を散歩する市民が観戦する姿もよく見られます。



散歩の途中で野球観戦



土手から見る10号グランド（通称Bグランド）



どこまでも広がる広い空。この雄大な光景が河川敷グランドの魅力。川向こうに見えるのは東京・篠崎



江戸川に向かってホームランを狙う



シーズン前に球場の整備
6号グランド、7号グランド

原木少年広場

JR 京葉線・二俣新町に近く、J R線が三角形を作っている所に原木少年広場が森に囲まれています。

市川市少年野球連盟第5ブロックにとって大切なグラウンドであり、時にはソフトボールの試合も行われます。バックネットはしっかりコンクリート製です。原木東浜公園がありトイレや水道も完備しています。

市川市で最強のチームである原木野球部が以前から管理しているので、綺麗に機能的に整備されています。このグラウンドで鍛えられた選手たちが日報杯や全日本学童千葉大会で優勝しました。



ホームよりレフト方向を見る。向こうは京葉線高架



礼儀正しさが少年野球の原点



整えてある整備道具



スコアを教えながらの観戦風景



妙典少年広場



広々とした妙典少年広場の雰囲気はこんな感じです

ご覧のように妙典中学校の南側、江戸川土手の広々とした少年広場です。A面、B面ふたつのグラウンドがともに両翼・中堅ともに少年野球サイズを超える大きさがあります。連盟の各種大会、審判講習会も妙典少年広場を使用します。開会式などを除いて市川市少年野球のメイングラウンドとなっています。

平成16年（2004）にベンチ、防球ネットの全面改修を実施しました。連盟の依頼を受けた柏井地区の篠崎義治氏の指導の下、60余名により二つのグラウンドの防球ネットとベンチを作成しました。

改修工事の風景



旧ベンチは小屋のような形



新設ベンチの完成



ボランティアによる改修工事中



グラウンド整備中は駐車場で練習してもらった。この子たちの歓声がグラウンドに響き渡ることが少年野球関係者の力の源！



塩焼中央公園野球場

地下鉄東西線・妙典駅から南へ数分、塩焼小学校と道路一本隔てて塩焼中央公園があります。

塩焼、幸、宝、妙典、本塩、妙典、富浜の地域の子供たちにとって、小さい時から遊び慣れた公園の中にある少年野球場です。住宅街の中にありながら広々として週末になると子供たちの元気な歓声が響く、街中のグラウンドです。市川市少年野球連盟第5ブロックの地区リーグは、この野球場で開会式を行い熱戦を繰り広げて、地域のお年寄りや親子連れも足を停めて野球少年たちの元気いっぱいのユニホーム姿を見守ります。そんな地域に根差し塩焼中央公園少年野球場は地域の憩いと交流のグラウンドです。とても大切であり、地域のチームでいつも綺麗に清掃して整備を怠りません。



地区リーグの開会式



子供たちは相手を称えることを覚える



南行徳公園（えんぴつ公園）

さまざまな場面の活動状況スナップをご紹介します。



築山より一望したグラウンド



監督の指導を熱心に聞く子供たち

一塁側ファールフェンスネット取り付け



父兄や連盟役員によるグラウンド整備風景



取り付け作業後の一塁側風景

青葉少年スポーツ広場

青葉少年スポーツ広場（人工芝）は右中間が狭く低学年の試合に使用されます。
フットサルのコートも区画整備されている。駐車場も完備。



隣接する野鳥観察舎への遊歩道

福栄スポーツ広場

湿地公園が隣接された広々とした福栄スポーツ広場で野球に打ち込む子供たち。

内外野芝生グラウンド、テニスコート、ゲートボール場も完備されている。

青葉少年スポーツ広場とは、野鳥観察舎遊歩道でつながっていて、朝夕には散歩する人、野鳥観察する人でにぎわいます。

春には桜並木、あかしや並木の花があふれ、秋には紅葉の隠れた名所でもあります。



少年野球なら4試合同時進行が可能なくらいのグラウンド

